

2025年2月14日

## The Emerging Markets Weekly

# ウクライナ情勢改善への期待や、米相互関税の即時発動の回避を好感し大半が上昇

**新興国市場:**先週末7日のアジア時間は米1月雇用統計の発表を控え様子見ムードが拡がり大半が小幅な値動き。THBが上昇する一方、VNDは軟調。欧米時間、米1月雇用統計は強弱入り混じる結果となるなか、トランプ米大統領が相互関税の導入を計画しているとの報道を受けてリスク心理が悪化し、下押しされた。BRLやMXNが下落。週初10日、トランプ大統領が全ての国からの鉄鋼・アルミニウムに対する25%の関税を発表するとの報道を受けて米インフレ加速懸念が高まり、米金利が上昇、新興国通貨はアジア通貨と東欧通貨が軟調な動き。他方、中南米通貨は買われた。THBやMYRが値を下げる一方、RUBやBRLは上昇した。11日アジア時間、トランプ大統領は予告通り、鉄鋼とアルミニウムに25%の関税を課すことを発表するも市場への影響は限定的。VNDとTHBが下落。一方、INRは上昇した。欧米時間、リスクオフムードが後退し新興国通貨は反発。BRLやMXNが値を伸ばした。12日のアジア時間は、米1月消費者物価指数(CPI)の発表を控え総じて動意の薄い展開。欧米時間、米1月CPIは市場予想を上振れ、ドルも上昇するも一時的にとどまり、ドルは反落。新興国通貨はまちまち。ZARは小幅に下落した。13日の新興国通貨は概ね上昇。ウクライナ停戦の交渉進展への期待が高まったことが支えとなった。また、米国の相互関税の即時発動が見送られたことも好感された。RUBは前日比+5.0%値を伸ばし、SGDやTHB、MXNも上昇した。

**アジア:**インド準備銀行(RBI、中央銀行)は7日に政策金利を▲25bp引き下げ、6.25%にすることを決定した。利下げは2020年5月以来となる。2024年12月に就任したマルホトラ総裁の初会合だった。景気支援のため利下げに踏み切った。9日公表の中国1月消費者物価指数(CPI)は前年比+0.5%と前月から加速し、市場予想も上振れた。同日発表の中国1月生産者物価指数(PPI)は前年比▲2.3%と前月から横ばい、市場予想よりマイナス幅が大きかった。12日公表されたインド1月CPIは前年比+4.31%と前月から鈍化し市場予想も下振れた。食料品価格の高騰に一服がみられ、全体を押し下げた。フィリピン中央銀行(BSP)は13日に政策金利を5.75%に据え置くことを決定した。市場では▲25bpの利下げをみる向きが大勢だったためサプライズとなった。2024年8月から3会合連続で利下げをしてきたが、いったん様子見の姿勢を示した。

**中東欧・アフリカ:**トルコ中央銀行(TCMB)は7日に四半期インフレ報告書を公表し、2025年末のインフレ率予想を従来の+21%から+24%に引き上げた。2026年末については従来の+12%に据え置き、2027年末は+8%と予想。

**ラテンアメリカ:**7日発表のメキシコ1月CPIは前年比+3.59%と前月から鈍化し、市場予想も下回った。食料品価格の低下が全体を押し下げた。11日公表のブラジル1月消費者物価指数(IPCA)は前年比+4.56%と前月から鈍化し、市場予想を下回るも依然としてインフレ目標を上回っている。

金融市場部  
シニアマーケット・エコノミスト  
堀 堯大  
03-3242-7065  
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

マーケット・エコノミスト  
長谷川 久悟  
03-3242-7065  
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜  
03-3242-7065  
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

欧州資金部  
シニア為替ストラテジスト  
中島 将行  
masayuki.nakajima@mizuhoemea.com

## 市場概観(インド)

### 2月金融政策会合～マルホトラ体制初の会合は約5年ぶりの利下げ実施～

金融市場部  
マーケット・エコノミスト  
長谷川 久悟  
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

インド準備銀行(RBI、中央銀行)は5～7日に実施された金融政策委員会(MPC)で政策金利のレポレート▲25bp引き下げ、6.25%とした(図表1)。利下げは2020年5月の臨時会合以来、約5年ぶりである。決定は、政策委員メンバー6人の全員一致。なお、ブルームバーグの事前予想では、▲25bpの利下げが見込まれていた。政策スタンスは、こちらも全員一致で「中立」で据え置かれている。念のため記載しておくが、タイトルの通り、今回はマルホトラ総裁にとって初のMPCである。

声明文や総裁会見では、インド経済・物価見通しについての言及が目立った。最新のGDP統計は2024年7～9月期時点だが、PMIの推移や電力需要データを確認する限り、足許にかけても景気持ち直しの動きは限定的に思える(図表2)。先行きに関しRBIは、2024-2025年度(2024年4月～2025年3月)の実質GDP成長率予測を+6.4%(前年比、以下同様)とし、前回会合時点の+6.6%から下方修正した。なお、今回会合からは2025-26年度の見通しも加わったが、こちらは+6.7%となっている。先行きに関しては、所得税減税(\*)に伴う個人消費活発化や良好な農業生産に加え、好調なサービス輸出などを受け景気が回復に向かうとの見通しを示した。成長率見通しのリスクバランスは、引き続き均等が取れていると言及されている。

域内の物価動向に関して、2月MPC時点で最新のデータである12月消費者物価指数(CPI)は、+5.22%(前年比、以下同様)と11月の+5.48%および市場予想の+5.30%を下回った(図表3)。また、食料品および燃料を除いたコアベースでは、+3.7%と3か月連続で同じ伸び率になっている。なお総合ベースではRBIの目標レンジ+4.0%(±2.0%)には収まっているものの、中央の+4.0%を大きく上回って推移している。ただし、昨年後半のインフレ高進をけん引した野菜価格は年初以降落ち着いて推移しており、1月分のCPIは+4.0%台に伸びが鈍化すると見られる(図表4)。こうした流れを受けRBIは先々の見通しに関し、2024-2025年度のインフレ率について+4.8%と公表し、前回会合時点から据え置いた。GDP同様、2025-26年度の見通しも新たに示されたが、+4.2%となっている。上述の食品インフレに関しても、総裁会見では「食品インフレ圧力は顕著に改善する見込み」との言及が見られた。なお、インフレのリスクバランスに関しては、均等が取れているとの認識に変化はなかった。

かかる中、総裁会見では「より制限的ではない金融政策が適切」と利下げ着手の理由を説明した。声明文にこのような記載はなかったものの、利下げ着手の理由は異なる表現でしっかりと説明されている。RBIは今回、「インフレ見通しの良好さ」「回復が見込まれるものの、昨年の伸びには大きく劣後するであろう成長率見通し」のバランス感を天秤にかけたうえで、「これらのダイナミズムが、MPCが成長を支えるための政策余地を拡げている」と経緯を詳細に説明している。やや難しい表現だと感じるので平たく言い換えれば、インフレ高進よりも景気軟化へ配慮する段階に入っているので利下げに着手した、ということだ。

市場が注目するのは、言わずもがな今後の利下げペースだろう。この点、筆者は今後毎会合における連続利下げは見込んでいない。理由は主に3点である。まず1点目だが、今回会合の声明文や総裁会見では、利下げ継続の示唆は見られていな

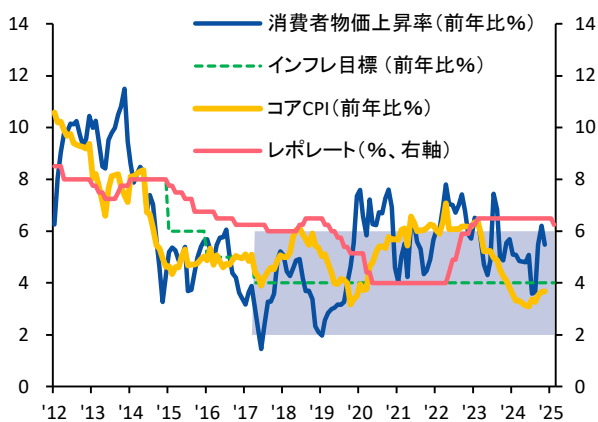
い。2点目に、今回の見通しに基づけば、CPIがRBIの目標中心(+4.0%)を明確に割り込むのは、2025年10~12月期である。利下げを急ぐ段階にはない。3点目に、今年度と来年度のGDP見通しはそれぞれ+6.4%、+6.7%となっているが、決してこれは低い水準ではない。比較対象となる2023-24年度の+8.2%という数字が高すぎるだけで、例えばパンデミック期までの10年間の平均成長率は約+6.6%である。巡航速度に戻るだけで、正常な景気循環と言える。危機対応での大幅利下げが必要な状態ではなからう。

以上の要素に鑑み、筆者は向こう1年間に開催予定の6回のMPCで、2~3回の利下げが行われると想定する。この前提に立てば政策金利は、5.50%か5.75%になる。パンデミック後でさえ政策金利が4.00%もあったこと、上記の通り経済物価情勢がハイペースな利下げを支持しないことなどに鑑みれば、妥当な水準と考えている。

2月に入ってからMPCまでのINR相場は、節目の87を突破し、過去最安値を更新しつつ取引されている(図表5)。年初以降、海外投資家によるインド株式市場からの資金流出が目立っており、こうした動きがINRの重しになったと考えられる(図表6)。そのほか、日々の貿易フローおよびRBIのハト派傾斜期待なども逆風になった可能性が高い。目先3月末までのINR相場は、上値の重い推移を想定するが、INR安の加速は見込んでいない。過去の推移に鑑みれば、海外投資家によるインド株売りが足許のペースを維持できるとは思わない。更に、一旦RBIが利下げに着手した以上、更なるハト派シフトの期待も早晚萎むのではないか。上述の通り、大幅な利下げが必要な状況には見えない。年初以降のINR安要因が一巡する中、INR安の加速は考えにくい。ただ、日々の貿易フローがINR安を支持する流れは不変であろう。こういった要素がおおむね相殺しあう格好で、INR相場も動意に乏しい展開を想定する。

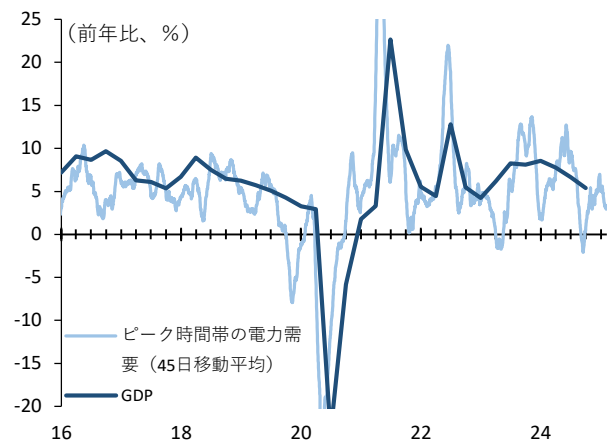
(\*)詳細は、2025年2月3日発行の通貨ニュース、『インド:予算案レビュー、および2月MPCプレビュー』をご覧ください。

図表 1:レポレートと物価水準の推移



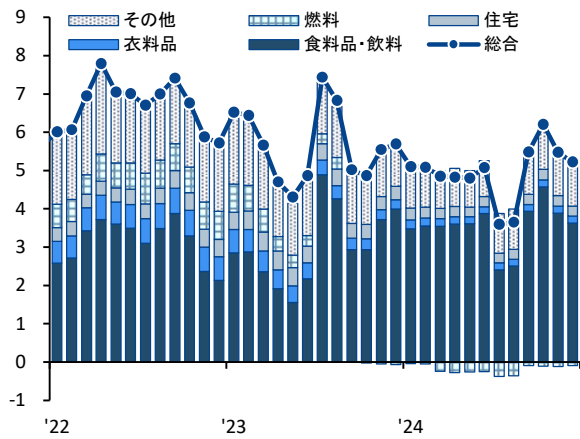
出所:インド準備銀行、みずほ銀行、CEIC 注:青枠は目標レンジ

図表 2:実質 GDP 成長率と電力需要



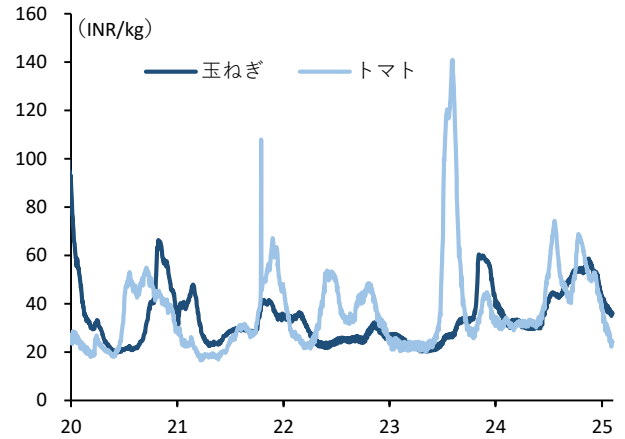
出所:Macrobond、みずほ銀行

図表 3: 消費者物価指数の推移(%、%ポイント)



出所: CEIC、みずほ銀行

図表 4: 玉ねぎとトマトの小売価格の推移



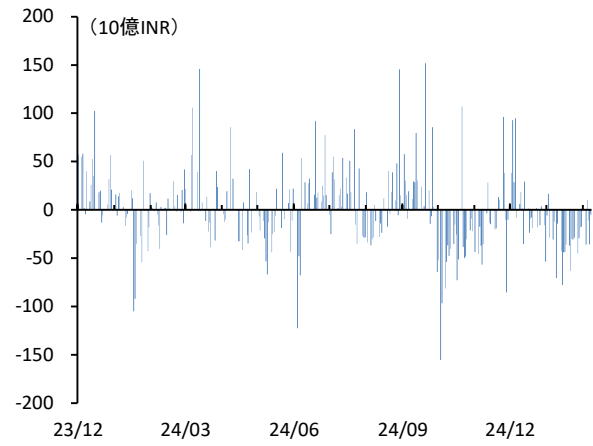
出所: Macrobond、みずほ銀行

図表 5: INR 相場動向



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 6: 海外投資家によるインド株式市場への資金流出入



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行 ※日次データ、2月7日まで

## 市場概観(フィリピン)

### 2月金融政策会合～予想外の利下げスキップ ～

金融市場部  
大島 由喜  
03-3242-7065  
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

フィリピン中央銀行(BSP)は、13日に金融政策会合の結果を公表し、政策金利の翌日物リバースレポレート $5.75\%$ に据え置くことを決定した(図表1)。2024年8月会合では、約4年ぶりに利下げに着手し、前回12月会合まで3会合連続で $\blacktriangle 25\text{bp}$ の利下げを実施してきた。また、上限金利の翌日物貸出ファシリティ(OLF)レートおよび下限金利の翌日物預金ファシリティ(ODF)レートも据え置かれ、それぞれ $6.25\%$ 、 $5.25\%$ とした。ブルームバーグの事前予想では、調査対象者のほぼ全員が $\blacktriangle 25\text{bp}$ の利下げを見込んでいたため、据え置きはサプライズとなった。

会合までのBSPの情報発信を振り返ると、レモロナBSP総裁は1月9日、2024年の年間インフレ率が目標範囲(+2~4%)に収まったことを受けて、金融緩和に一定の余地があると述べた。米トランプ政権による通商政策の不確実性がインフレ面で課題になるとの見方を示す一方、政策の方向性はFRBの動向に左右されないと述べていた。また同氏は2月1日、2月会合で利下げを検討していること、2025年の前半に $\blacktriangle 25\text{bp}$ 、後半に $\blacktriangle 25\text{bp}$ の合計 $\blacktriangle 50\text{bp}$ の引き下げの可能性に加え、年央には銀行の預金準備率を $\blacktriangle 200\text{bp}$ 引き下げることにも議論しているとも述べていた。レモロナ総裁の発言に加え、フィリピン10~12月期実質GDP成長率が前年比+5.2%と市場予想(同+5.5%)を下振れたことなどを背景に、経済成長の支援のため今回会合で $\blacktriangle 25\text{bp}$ の利下げが実施されると見る向きが大勢だった(図表2)。2月会合においてBSPは経済見通しに関し底堅いとしており、景気の弱まりを意識する段階ではないと判断したと考えられる。

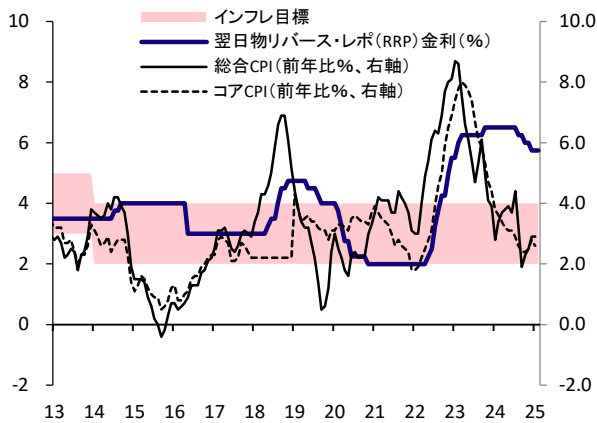
物価動向については、5日公表の1月消費者物価指数(CPI)は前年比+2.9%と12月から横ばい推移も、市場予想(同+2.8%)を上回った(図表3)。食品とエネルギーを除くコアCPIは同+2.6%となり、12月の同+2.8%から伸びが鈍化した。1月CPIは総合ベースもコアベースでも引き続きBSPの目標圏内(+2.0~+4.0%)に収まっており、物価情勢は総じて低位で安定しているといえよう。かかる中、フィリピン農業省は3日に食料安全保障緊急事態を宣言した。主食であるコメの価格高騰を抑制し、物価高を回避する狙いがある。こうした政府の物価対策も考慮してBSPが今会合で据え置きを決定した可能性もあるだろう。BSPは引き続き物価は目標範囲内に収まるとの見方を示した。先行きの予想インフレ率(リスク調整後)については、2025年の見通しを+3.5%と前回会合から+0.1%ポイント上方修正し、2026年については前回会合から引き続き+3.7%とした。なお、インフレのリスクバランスに関しては、12月の「上方に傾いている」から「均衡している」と下方修正した。よってBSPのインフレへの警戒感が高まったわけではないだろう。ただし、依然として現段階の焦点は景気よりインフレにあるとレモロナ総裁は述べた。

レモロナ総裁は今回の決定について、依然として緩和サイクルにあるものの、世界貿易の動向を踏まえ、現時点ではインフレ及び経済成長の見通しは不透明と指摘した。先行きの金融政策に関しては、次回4月会合はデータ次第とし、据え置きの可能性もあるとしつつ、利下げを実施しても $\blacktriangle 25\text{bp}$ にとどまらぬだろうと述べた。貿易を含め様々なことが不透明なため、慎重に見極めていく姿勢を強調した。不確実性はあっても、BSPは緩和姿勢に変化はなく2025年は2回の利下げ(合計 $\blacktriangle 50\text{bp}$ )が妥

当と判断している。引き続き、前半と後半に▲25bp ずつの利下げを予想する。

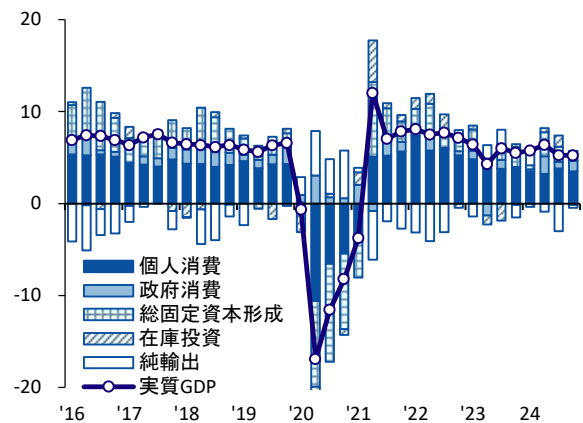
2月に入ってから、PHP相場は、米政権が対カナダ・メキシコの関税発動を延期したことなどが支えとなって58前半で安定的に推移している(図表4)。引き続き、世界貿易動向への不透明感はあるが、利下げの一時停止はPHP相場の支えとなるだろう。ただし、ここもと戻りつつあった外国人の株式投資フローが利下げ停止を嫌気し逆流する可能性に警戒が必要だろう。また、5日にサラ・ドゥテルテ副大統領の弾劾訴追案が下院で承認されたことを背景に、政治情勢の不安定化もリスクとなり得るだろう。

図表 1: 政策金利水準とインフレ目標



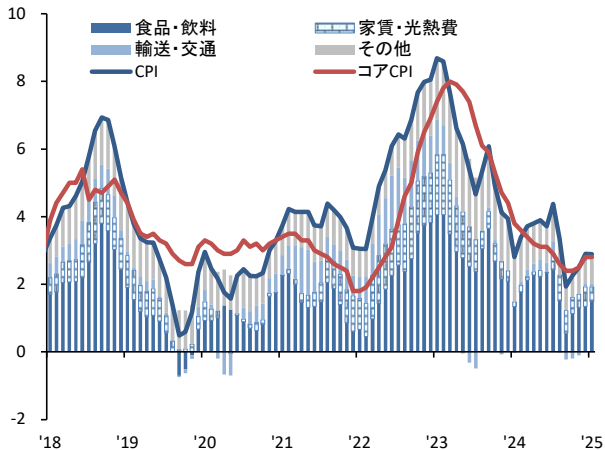
出所: フィリピン中央銀行、フィリピン国家統計局、Bloomberg、みずほ銀行

図表 2: 実質 GDP 成長率(前年比%、%ポイント)



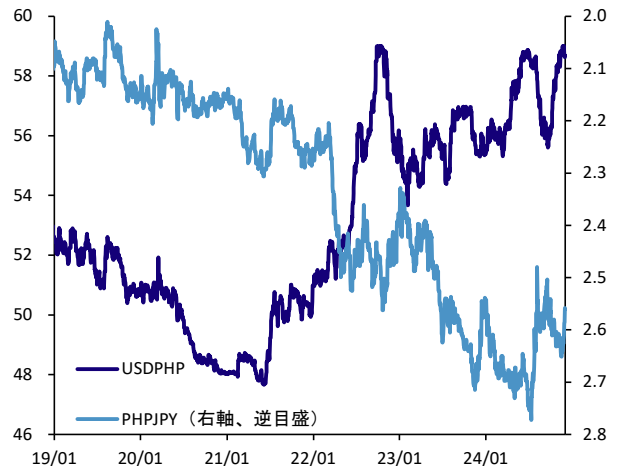
出所: CEIC、みずほ銀行

図表 3: 消費者物価上昇率の推移(前年比%、%ポイント)



出所: CEIC、みずほ銀行

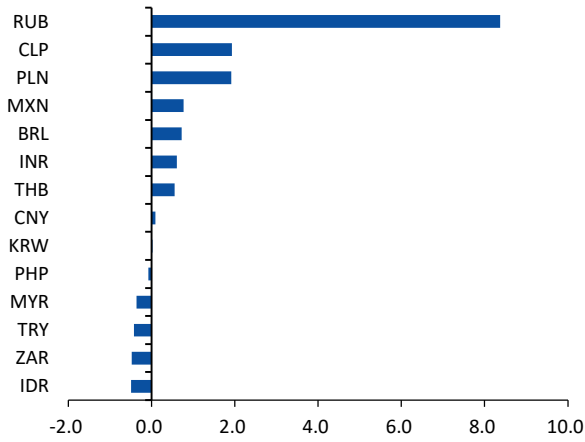
図表 4: PHP 相場動向



出所: Bloomberg、みずほ銀行

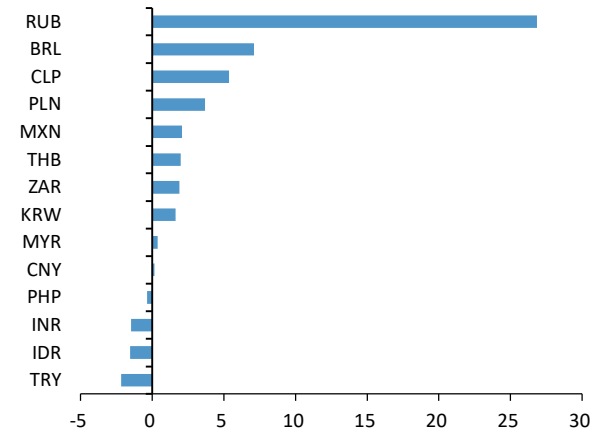
## 資産別騰落率

為替週間騰落率(対ドル、%)



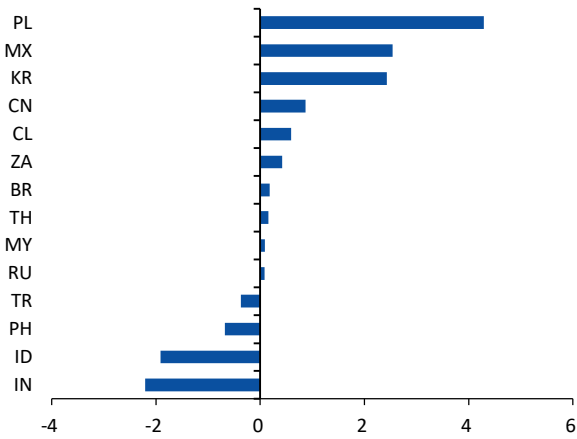
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

為替年初来騰落率(対ドル、%)



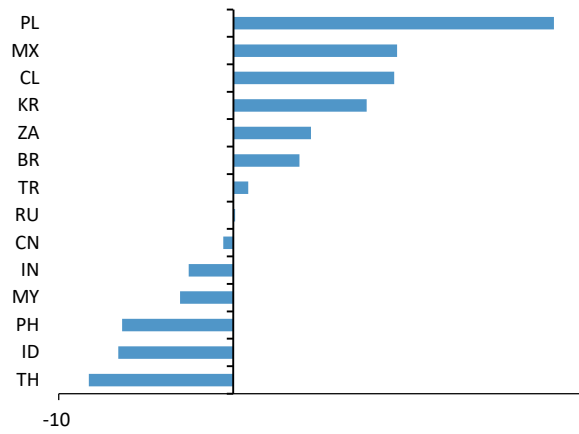
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株価週間騰落率(%)



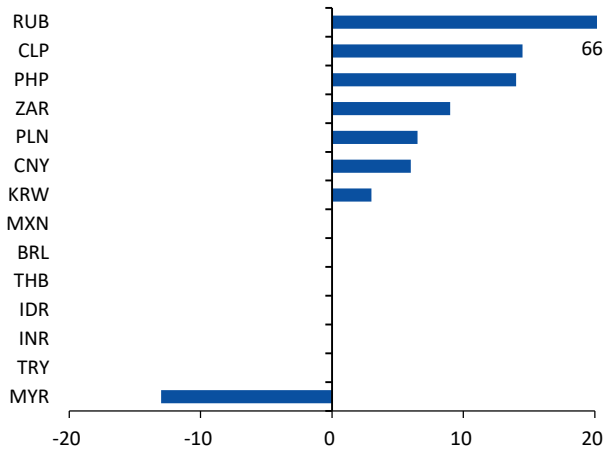
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株価年初来騰落率(%)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

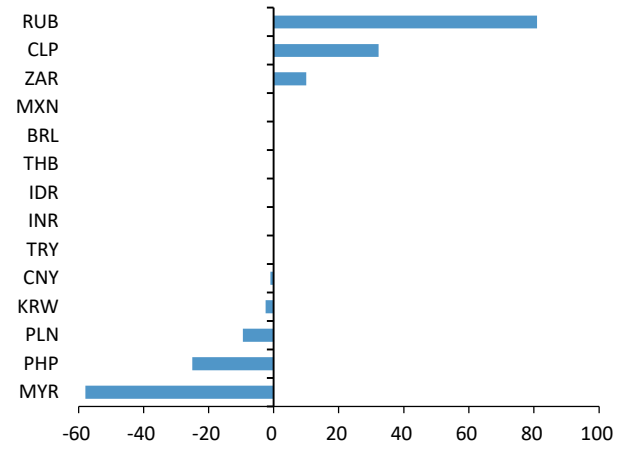
5年物スワップレート週間変化(bp)



注: データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

5年物スワップレート年初来変化(bp)

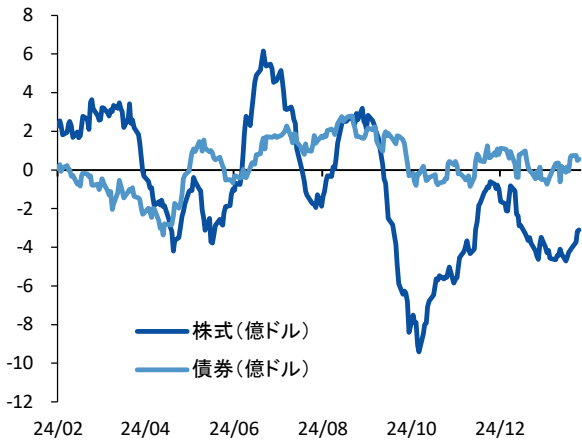


注: データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

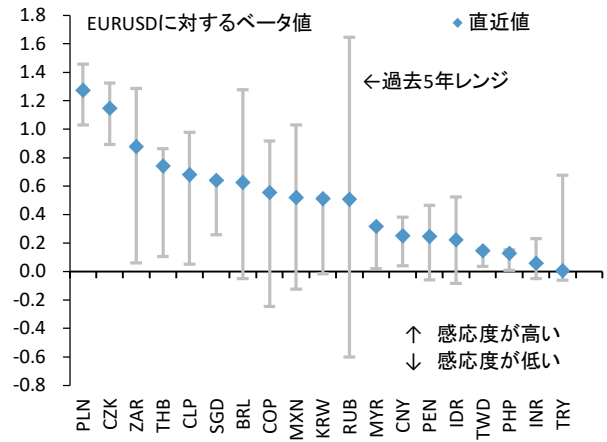
チャート集

主要新興国への証券投資(4週間移動平均)



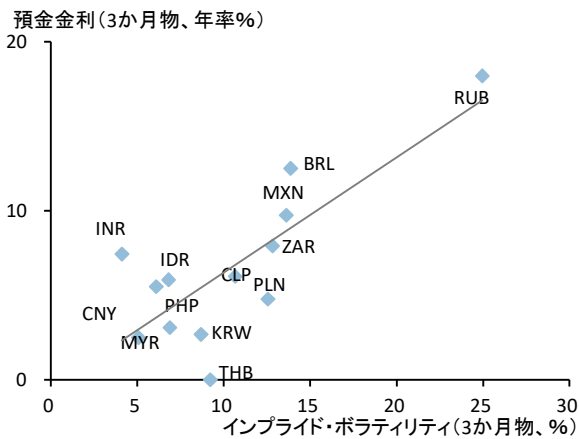
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

EM通貨(対ドル)のEURUSDに対する感応度(過去12か月)



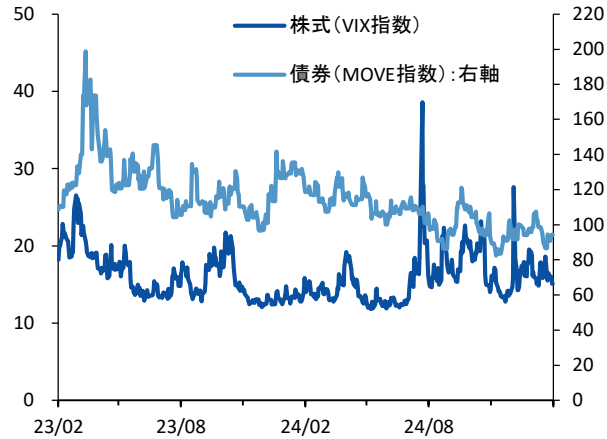
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国の預金金利と為替ボラティリティ



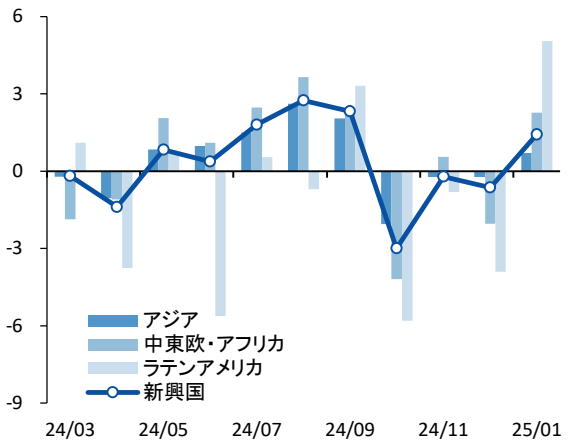
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

株式と債券のボラティリティ(VIX指数、MOVE指数)



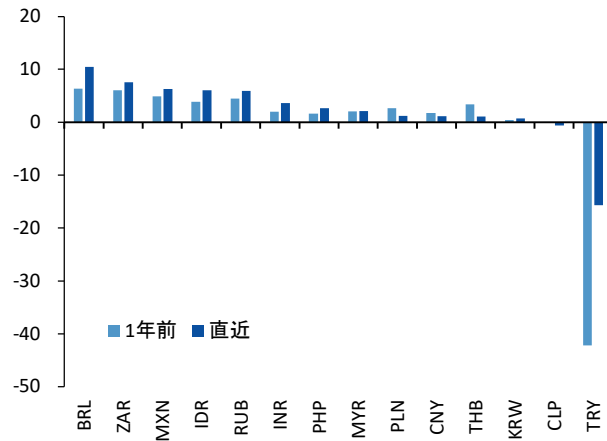
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国現地通貨建て国債月次パフォーマンス(%)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

実質金利(10年物国債金利 - 消費者物価上昇率、%)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行



## 新興国経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
<b>エマージングアジア</b>						
2月12日 (水)	インド	鉱工業生産(前年比)	3.7%	3.2%	5.2%	5.00%
12日 (水)	インド	CPI(前年比)	4.5%	4.3%	5.2%	--
13日 (木)	フィリピン	BSP翌日物借入金利	5.50%	5.75%	5.75%	--
13-14日	インド	輸入(前年比)	--	--	4.9%	--
13-14日	インド	輸出(前年比)	--	--	-1.0%	--
14日 (金)	シンガポール	GDP(前年比)	5.0%	--	4.3%	--
14日 (金)	マレーシア	GDP(前年比)	4.8%	--	4.8%	--
14日 (金)	インド	卸売物価(前年比)	2.5%	--	2.4%	--
17日 (月)	シンガポール	非石油地場輸出(前年比)	--	--	9.0%	--
17日 (月)	タイ	GDP(前年比)	3.4%	--	3.0%	--
17日 (月)	インドネシア	貿易収支	--	--	\$2239m	--
17日 (月)	フィリピン	Overseas Cash Remittances YoY	2.7%	--	3.3%	--
19日 (水)	インドネシア	BI-Rate	5.75%	--	5.75%	--
19日 (水)	フィリピン	総合国際収支	--	--	-\$1508m	--
20日 (木)	韓国	PPI 前年比	--	--	1.7%	--
20日 (木)	韓国	消費者信頼感	--	--	91.2	--
20日 (木)	中国	1年貸出プライムレート	3.10%	--	3.10%	--
20日 (木)	マレーシア	輸出(前年比)	--	--	16.9%	--
20日 (木)	台湾	輸出受注(前年比)	--	--	20.8%	--
21日 (金)	マレーシア	CPI(前年比)	--	--	1.7%	--
21-26日	タイ	貿易収支(通関ベース)	--	--	-\$11m	--
<b>中東欧・アフリカ</b>						
2月10日 (月)	トルコ	鉱工業生産(前年比)	--	7.0%	1.5%	1.60%
11日 (火)	南ア	製造業生産(季調前/前年比)	-1.7%	-1.2%	-2.6%	-1.90%
13日 (木)	トルコ	経常収支	-4.00b	-4.65b	-2.87b	--
14日 (金)	ロシア	主要金利	21.00%	--	21.00%	--
15日 (土)	ロシア	CPI(前年比)	9.9%	--	9.5%	--
18日 (火)	南ア	南アフリカ失業率	--	--	32.1%	--
19日 (水)	南ア	CPI(前年比)	--	--	3.0%	--
19日 (水)	南ア	小売売上高(実質値、前年比)	--	--	7.7%	--
20日 (木)	ロシア	PPI 前年比	--	--	7.9%	--
21日 (金)	トルコ	外国人観光客(前年比)	--	--	4.2%	--
<b>ラテンアメリカ</b>						
2月11日 (火)	ブラジル	IBGEインフレ率IPCA(前年比)	4.6%	4.6%	4.8%	--
11日 (火)	メキシコ	鉱工業生産(季調前/前年比)	-1.2%	-2.7%	-1.4%	--
13日 (木)	ブラジル	小売売上高(前年比)	3.0%	2.0%	4.7%	5.20%
17日 (月)	ブラジル	経済活動(前年比)	4.0%	--	4.1%	--
20日 (木)	メキシコ	小売売上高(前年比)	--	--	-1.9%	--
21日 (金)	メキシコ	GDP(季調前/前年比)	--	--	0.6%	--
21日 (金)	メキシコ	経済活動IGAE(前年比)	--	--	0.5%	--

注: 2025年2月14日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。  
 出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

## 為替相場見通し

	2025年 1月(実績)	SPOT	2025年 3月	6月	9月	12月	2026年 3月
<b>対ドル</b>							
<b>エマージングアジア</b>							
中国人民元 (CNY)	7.2376 ~ 7.3328	7.2879	7.32	7.38	7.23	7.12	7.12
香港ドル (HKD)	7.7682 ~ 7.7937	7.7875	7.79	7.78	7.77	7.76	7.76
インドルピー (INR)	85.653 ~ 86.688	86.905	85.8	86.0	84.8	84.3	84.3
インドネシアルピア (IDR)	16130 ~ 16412	16361	16250	16300	15650	15200	15230
韓国ウォン (KRW)	1426.64 ~ 1477.46	1447.63	1470	1460	1450	1420	1400
マレーシアリング (MYR)	4.3675 ~ 4.5185	4.4567	4.47	4.53	4.30	4.12	4.14
フィリピンペソ (PHP)	57.812 ~ 58.708	58.071	58.8	59.6	57.2	56.5	56.3
シンガポールドル (SGD)	1.3421 ~ 1.3751	1.3437	1.36	1.37	1.34	1.32	1.32
台湾ドル (TWD)	32.602 ~ 33.151	32.809	33.0	32.8	32.5	32.3	32.3
タイバーツ (THB)	33.54 ~ 34.84	33.70	34.8	35.2	34.3	33.6	33.3
ベトナムドン (VND)	25038 ~ 25494	25466	25550	25750	25100	24700	24680
<b>中東欧・アフリカ</b>							
ロシアルーブル (RUB)	96.5673 ~ 114.7788	89.5000	100.0	102.0	104.0	106.0	108.0
南アフリカランド (ZAR)	18.3022 ~ 19.2296	18.5391	18.2	18.0	17.8	17.6	17.4
トルコリラ (TRY)	35.2419 ~ 35.8707	36.1858	37.0	38.0	39.0	40.0	41.0
<b>ラテンアメリカ</b>							
ブラジルレアル (BRL)	5.8114 ~ 6.2270	5.7677	5.95	5.90	5.95	6.00	6.05
メキシコペソ (MXN)	20.1343 ~ 20.9382	20.4117	21.0	21.4	21.0	20.8	20.6
<b>対円</b>							
<b>エマージングアジア</b>							
中国人民元 (CNY)	21.157 ~ 21.666	21.023	21.04	20.73	21.72	22.47	22.47
香港ドル (HKD)	19.729 ~ 20.403	19.626	19.77	19.67	20.21	20.62	20.62
インドルピー (INR)	1.776 ~ 1.848	1.759	1.79	1.78	1.85	1.90	1.90
インドネシアルピア (100IDR)	0.944 ~ 0.981	0.934	0.948	0.939	1.003	1.053	1.051
韓国ウォン (100KRW)	10.583 ~ 10.916	10.557	10.48	10.48	10.83	11.27	11.43
マレーシアリング (MYR)	34.432 ~ 35.699	34.561	34.45	33.77	36.51	38.83	38.65
フィリピンペソ (PHP)	2.635 ~ 2.726	2.657	2.62	2.57	2.74	2.83	2.84
シンガポールドル (SGD)	113.45 ~ 116.09	113.75	112.99	111.60	117.60	121.40	121.40
台湾ドル (TWD)	4.701 ~ 4.843	4.667	4.67	4.66	4.83	4.95	4.95
タイバーツ (THB)	4.486 ~ 4.653	4.533	4.43	4.35	4.58	4.76	4.80
ベトナムドン (100VND)	0.6113 ~ 0.6253	0.6001	0.60	0.59	0.63	0.65	0.65
<b>中東欧・アフリカ</b>							
ロシアルーブル (RUB)	1.370 ~ 1.606	1.710	1.54	1.50	1.51	1.51	1.48
南アフリカランド (ZAR)	8.176 ~ 8.525	8.243	8.46	8.50	8.82	9.09	9.20
トルコリラ (TRY)	4.289 ~ 4.481	4.210	4.16	4.03	4.03	4.00	3.90
<b>ラテンアメリカ</b>							
ブラジルレアル (BRL)	25.209 ~ 26.635	26.502	25.88	25.93	26.39	26.67	26.45
メキシコペソ (MXN)	7.428 ~ 7.790	7.487	7.33	7.15	7.48	7.69	7.77

注: 1. 実績の欄は2025年1月31日まで。SPOTは2月14日の7時10分頃。

2. 実績値はブルームバーグの値。

3. 予想の欄は四半期末の予想。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。